

## 2009年度育友会全学懇談会を開催しました

2009年度の神戸大学育友会全学懇談会を6月13日、神戸大学百年記念館(神大会館)六甲ホールで開催しました。ご夫婦で来学される方も多く、会場は約270人の新入生保護者等の皆さまで、ほぼ満席になりました。

最初に育友会を代表し、内田正志・新理事長があいさつ。入会のお礼のあと、懇談会に先立つ理事会で承認された事業計画等について報告し、更なる育友会活動へ協力をお願いします。

続いて福田秀樹学長が、大学時代に夢を見つけるように学生たちへ伝えて欲しいと、語りかけました。また田中康秀副学長(教育担当)は、神戸大学の沿革や教育憲章について説明したうえ、本学では

人間性豊かな人材を育てるため教養・外国語教育に力をいれていると強調しました。さらに石田廣史副学長(入試・学生生活担当)は、学生を支えるため、よりいっそうの大学との連携強化をお願いします。最後に内田正博キャリアセンター長が学生の就職状況を紹介したうえ、キャリアセンターは学生の自立と社会的関心を喚起しサポートすることを基本姿勢としていると説明しました。

全学懇談会終了後は各学部会場を移し、学部別懇談会が開催されました。各学部とも修学状況、学生生活や進路状況について質疑応答があり、熱心に意見が交換されました。

(学務課)

### 先輩登場 Alumni Corner

## 同窓生と昆虫館を復活

### 佐用町昆虫館館長 内藤 親彦

(1965年兵庫農科大学<現神戸大学農学部>卒、神戸大学名誉教授)



兵庫県の西端、緑豊かな船越山の麓に建つ「兵庫県昆虫館」は、県の財政難により37年の歴史に幕を閉じることが、2007年11月に新聞紙上で報じられました。自然環境教育に関心が高まる中での昆虫館閉館を憂い、神戸大学農学研究科昆虫機能科学研究室の竹田真木生教授や、同研究室卒業生の丹波の森公苑の足立隆昭アドバイザーおよび兵庫県立人と自然の博物館の八木剛主任研究員らが地元佐用町にその存続を働きかけました。同氏は賛同者を募り、NPO法人を立ち上げて昆虫館を管理運営することを提案し、粘り強く町を説得した結果、町も昆虫館存続に踏み切りました。

「兵庫県昆虫館」は2008年3月に閉館し、展示物は撤去され、館はもぬけの殻となりました。NPO法人「こどもとむ

しの会」が2008年9月に正式に認可されたのを機に、館内の整備や展示準備が始まりました。37年間の垢落しから始まり、展示は全て会員の手作り・持ち寄りでなされました。幸いなことに熱心な会員が多く、自慢の標本や写真、パネルで館が埋まっていきました。

「こどもとむしの会」の正会員は現在70名で、中学・高校・大学の教員、博物館・昆虫館の研究員、自治体の職員、会社員、自営業者、年金生活者、主婦など、様々な職種の方の集まりです。共通点は、虫好き、自然好き、子供好き。正会員のうち、神戸大学の同窓生が13名を占めています。30代から70代で、多くは「こどもとむしの会」の役員や事務局員を担当し、会の中核的役割を担っています。

「佐用町昆虫館」は、我々NPO法人が指定管理者となり、2009年4月4日に開館しました。開館は4月から10月の土・日に限っています。開館日には3~5名の会員有志が、館内の案内や昆虫の観察・採集・標本作りなどの自然体験学習の実施を、無給のボランティアとして交代で担当しています。開館後は多くの子供たちやご家族が来館され、喜ばれています。自然との距離が益々遠くなっていく今日、子供たちが昆虫や生きものと接する中で、自然の不思議さや面白さを体験し、自然の大切さを自らが身をもって感じることを願っています。

